

海産生物放射能影響評価調査（63年度） 一抄録一

（有用水産生物分布調査）

松本 昌也・十三 邦昭・早川 豊・上原子次男
黄金崎栄一・藤田 修央

発 表 誌 名

63年度海洋環境放射能総合評価事業成果報告書 一海産生物放射能影響評価調査一 （青森県）

抄 録

有用水産生物分布調査

1. 漁 獲 調 査

(1) 標本船調査

調査海域（白糠～三沢沿岸）で営まれている刺網、一本釣、昼イカ釣、小型定置網、大型定置網、旋網および小型底曳網の7漁業種類について、白糠、六ヶ所海水、三沢市、県旋網および八戸遠海の各漁協から14経営体を抽出し、操業状況などを調査した。

その結果は、刺網では極く沿岸の水深30m以浅での操業で、三沢、六ヶ所沖では周年ヒラメ、カレイ類を対象としていたが、北部の小田野沢沖では10～1月まではサケを主対象としていた。また、小型定置網も水深26～27mでサケを対象に9～1月まで操業がみられた。

大型定置網は尾駸沖水深49mで、4～5月はサクラマス、6～8月はマグロ、9月以降はサケを対象に操業が営まれた。一本釣は1～5月まではサクラマスを対象に水深60～80m、7月～9月中旬まではヒラメを対象に水深10～20m、9月下旬～11月まではバラメヌケを対象に尻屋～尻労沖水深140～230mで操業がみられた。昼イカー一本釣は尻屋～鮫角沖水深80～200m海域で広範に操業がみられたが、漁場は漁期を追って北から南へ移行している。旋網はマイワシ、カタクチイワシを対象に夏季～秋季に操業していたがマイワシは水深40m以深に、カタクチイワシは極く沿岸の水深4～20m海域で主に操業していた。小底ではマダラ、スケトウダラ、ヒラメ、カレイ類を主体に水深40～380mで8月を除いて周年操業がみられた。

(2) 検 体 調 査

白糠、三沢市の二漁協からアイナメ他16種を購入し全長又は尾叉長、食性、成熟度等を調査した。

アイナメ……平均全長は雄では6月32.3cm、1月37.4cm、雌では6月33.1cm、1月38.6cmであった。胃内容物は6月、1月とも魚類、イカ類、甲殻類、貝類など種類が多く雑食性であった。生殖巣は6月は未熟個体であったが1月は放卵後のものも認められた。

ヒラメ……平均全長は雄では6月33.2cm、10月32.7cm、1月33.2cm、雌では6月32.9cm、

10月34.4cm、1月35.1cmであった。胃内容物は各月とも魚類が殆どで、他にはエビ類、イカ類が捕食されていた。生殖巣は未発達であった。

マコガレイ……平均全長は雄では6月27.8cm、10月29.0cm、3月26.3cm、雌では6月29.3cm、10月30.1cm、3月30.7cmであった。

胃内容物は6月、10月は貝類、多毛類、端脚類など多岐にわたっていたが1月、3月はすべて空胃であった。生殖巣指数および放卵個体の観察結果から1～3月は産卵期にあると考えられた。

イシガレイ……平均全長は雄では6月22.8cm、10月25.4cm、3月25.7cm、雌では6月23.3cm、10月25.9cm、3月26.6cmであった。胃内容物は時期的に若干異なるが、甲殻類、端脚類、魚類、多毛類などを捕食している。生殖巣は未発達な個体が多かった。

マガレイ……雄雌あわせた平均全長は6月25.7cm、1月27.0cm、3月22.7cmであった。胃内容物は多毛類が多かった。生殖巣指数では3月の雄は成熟、雌は半熟であったが、6月、1月は未熟であった。

ババガレイ……平均全長は雄では6月36.6cm、3月30.2cm、雌では6月34.0cm、3月40.0cmであった。胃内容物は6月は多毛類、端脚類、貝類などであったが3月は空胃であった。3月、6月とも産卵期であった。

ムシガレイ……3月だけの調査で、平均全長は雄では23.3cm、雌では32.0cmであった。

胃内容物は魚類、カニ類であった。

スナガレイ……6月だけの調査で、平均全長は雄では23.7cm、雌では26.0cmであった。

胃内容物は多毛類、アミ類、端脚類であった。生殖巣をみると雌の一部が放卵しており、6月は産卵期であろうと推定された。

サクラマス……平均尾叉長は、雄では42.2cm、雌では44.2cmであった。胃内容物は殆どが魚類で大部分はイカナゴを捕食していた。

クロソイ……平均全長は、雄雌合わせて6月28.6cm、10月26.1cmであった。胃内容物は魚類、イカ類であった。耳石による輪紋数は2～3輪のものが殆どでキツネメバルに比較して成長が早いようであった。

キツネメバル……平均全長は雄雌合わせて10月22.4cm、1月は雄24.9cm雌27.0cmであった。

胃内容物は10月カニ類、1月魚類、イカ、タコ類であった。生殖巣は両月とも未熟であった。耳石による輪紋数は4～7輪まで認められた。

ウミタナゴ……3月の平均全長は雄では20.3cm、雌では20.4cmであった。

耳石による輪紋数は2輪が多く、3輪の個体も若干みられた。

サケ……10月だけの調査で雄の平均尾叉長は62.7cm、雌では55.6cmであった。

雄では完熟に近い個体が多かったが、雌ではまだ完熟と云えない状態の個体が多かった。

2. 資源分布調査

試験船青鵬丸（56トン）によるかけまわし漁法で魚類など底棲生物の採集を行い、それらを分

類測定した。

採集物は魚類約42種、その他水産動物40種あった。

調査海域における優先種は魚類では、アイカジカ、ニギスなどで、アイカジカは水深80m以浅に、ニギスは水深110m以深に主に分布していた。

3. 主要魚種の生態調査

文献や過去の調査結果など既存資料により主要魚種毎（シロサケ、サクラマス、カラフトマス、クロソイ、キツネメバル、ウスメバル、メヌケ類、ヒラメ、ババガレイ、マダラ、スケトウダラ）の漁業実態および生態を取りまとめた。